聖書日課『からし種』2023.9.10－9.17

9月10日 （日） エズラ記 10章	**「以上の者は皆、異邦人の娘をめとった。その女の中には子を産んだ者もあった」（44節）。**10 章のリストは最も哀しく切ないリストである。確かに異民族との結婚は偶像礼拝をもたらす危険要因であったが、離縁された女たちや子どもたちはどうなったのだろう。主イエスなら何と声をかけられるだろうか。神の前の「聖」を厳格に求める「旧約」の限界がここにある。
11日 （月） ネヘミヤ 1章	**「これを聞いて、わたしは座り込んで泣き、幾日も嘆き、食を断ち、天にいます神に祈りをささげた」（4節）。**ネヘミヤ記はネヘミヤの断食の祈りから始まる。ネヘミヤはペルシャ帝国の高い地位に安住し続けることも可能だったが、彼は主の前に「わたしも、わたしの父の家も罪を犯しました」と告白し、城壁が崩れたままのエルサレムと自分を重ねて祈ったのだった。
12日 （火） ネヘミヤ 2章	**「神の御手がわたしを守ってくださったので、王はわたしの願いをかなえてくれた」（8節）。**「献酌官」とは王に供される食事の毒見役であり、毎日自らの命を差し出す覚悟を求められた職務であった。捕囚の民でありながら、ネヘミヤがいかにその誠実さを王に認められていたかが想像される。今日の各自の働きの中に、神からいただく誠実さを示すことができるように。
13日 （水） ネヘミヤ 3章	**「民には働く意欲があった」（38節）。**エルサレムの城壁の再建は、サマリア州からの独立を意味したので、サマリアの人々は激しく怒って妨害を繰り返した。けれどもネヘミヤたちは「わたしたちの神よ、お聞きください」と、主の前に心を注ぎだして祈り、主から力を受けていった。人の目には「弱さ」に見えるものが、主の慈しみによって「強さ」に変えられるのである。

メール配信登録メール　senfkorn.obc@gmail.com

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課『からし種』2023.9.10－9.17

14日 （木） ネヘミヤ 4章	**「わたしたちの神はわたしたちのために戦ってくださる」（14節）。**エルサレムの城壁の再建は「目に見える仕事」であるが、その本質は「見えない信仰の闘い」であることをネヘミヤは知っていた。今日、取り組む仕事が、神の目にはどう映っているのか。神が必要とされる働きならば、どんな困難があっても「必ず成る！」との信仰をいただくことができるように。
15日 （金） ネヘミヤ 5章	**「会衆は皆で、『アーメン』と答え、神を賛美した。民はその言葉どおり行った」（13節）。**私たちは祈りの最後に「アーメン」と唱えるが、その後、どれだけ自分が祈った内容に誠実であろうとしているだろうか。主イエスの福音に対して「アーメン」と応答し、賛美をささげる者として、主イエスの福音を共に生きる一日となりますように。主よ、聖霊の息吹で導いてください。
16日 （土） ネヘミヤ 6章	**「神よ、今こそわたしの手を強くしてください」（9節）。**城壁再建に反対する人々はあらぬ噂を流し、脅迫し、預言者を買収して揺さぶりをかけた。ネヘミヤは命の危険を覚えながらも主なる神に助けを祈り、ついに城壁の完成を見たのだった。私たちが抱える、どす黒く、しつこい罪深さと直面しながらも、最後まで祈り続けてくださった主イエスの深い慈しみを覚えて。
17日 （日） ネヘミヤ 7章	**「わたしは、兄弟のハナニと要塞の長ハナンヤにエルサレムの行政を託した。このハナンヤは誠実で、だれよりも神を畏れる人物だった。」（2節）。**主を畏れ、主の前に誠実であることの大切さと、そうあり続けることの難しさを聖書は繰り返しわたしたちに語り続けている。イエス様が示された父なる神への誠実に習って、歩みを続けるものでありたい。

大井バプテスト教会